

21世紀COE「京都大学化学連携研究教育拠点」外国人講演会 開催報告書

(理学研究科) 林 民生

研究集会名：理学研究科化学専攻 有機化学セミナー

演者：Professor László Kollár

University of Pécs, Hungary (ペーチ大学, ハンガリー)

演題：Platinum- and Palladium-Catalyzed Carbonylation Reactions of Styrene

場所：京都大学大学院理学研究科化学専攻 理学部2号館第3講義室 (130号室)

日程：2005年12月8日 16:30-18:30

総参加者概数：約30名

講演内容：

Kollár 教授は、これまで遷移金属触媒による様々な不斉反応や有用な化合物群の修飾反応を行なってきたおり、有機化学・有機金属化学の分野において活躍中の研究者である。今回は、白金およびパラジウム触媒によるスチレンの不斉ヒドロホルミル化反応における反応機構の考察についての講演を行なった。具体的には、高圧下でのIRやNMRといった分析手法を用いることで反応の経路や中間体の観測を行ない、関連する白金錯体のX線による構造解析の結果についても言及した。これらの研究から白金触媒に加えるスズ試薬の役割についての知見も得られ、また、反応溶媒を通常の有機溶媒からイオン性液体に変えることで、これまでに見られなかった挙動も観測され、イオン性液体の特異性についても示唆した。また、関連するパラジウム触媒反応における配位子依存的な位置選択性の変化についても触れた。

